

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師 1F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成28年3月17日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600343-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・町内会での行事活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動があり、入居者様は地域住民の皆様と共生して生活ができるよう積極的に取り組んでいます。
 ・入居者様のご自宅で行っていたことをホーム生活でも行なえるよう心がけ、一緒に家庭的な雰囲気の中で家事仕事、料理の盛り付け、配膳、拭き掃除や床のモップかけ洗濯など安全に配慮し行っています。
 ・利用者様が生活の中で不安な気持ちにならないように少しでも軽減するように受容と傾聴の姿勢で寄り添う介護でその人らしく生活して頂くため、職員は地域住民の皆様のご協力を頂き入居者様やご家族様との関わりを尊重し地域活動参加を推奨しております。
 ・継続で職員の意識改革の推奨で、法人では随時参加できる社内・社外での教育研修に力を入れております。スキルアップすることで、各職員の知識向上、モチベーションをあげてやりがいのある職場環境と利用者様並びにご家族様からの安心と安全の享受その中から信頼も受けられと考えており随時参加させております。
 ・継続で感染・不適切ケア「虐待予防」に対する職員の配置を行い、専任で内部・外部研修会に参加しホーム職員に報告し勉強会の実施も行い、その状況は定期的な運営推進会議等でご家族様や地域住民の皆さまにご報告などにも取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市郊外の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。複数のバス停や幹線道路が近く、利便性が高い。室内は広く清潔で、中庭と小上がりの和室を囲むように回廊式の廊下があり、浴室やトイレも広く作られている。職員が明るく、利用者との会話を密にし、家族のような関係を築いている。職員研修、献立や食材調達など本部からの支援体制も整っている。地域との関係では、町内会や保育園の行事に利用者と共に参加したり、事業所の行事にも保育園の園児を招いて交流している。市との関係は、運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ており、管理者は何かあれば市に直接出向いて相談している。馴染みの関係継続の支援の面では、友人や知人の来訪が多く、喫茶店やたい焼き店、海鮮食堂など、希望に応じて馴染みの場所への外出支援も行っている。入浴支援の面では、毎日午前午後とも入浴可能とし、利用者の希望に沿った頻度で気持ちよく入浴できるように支援している。外出支援の面では、暖かい時期は毎日のように散歩に出かけ、冬季でも散歩や外気浴、通院などでの外出機会を確保している。社用車を活用した年間行事も豊富である。利用者が明るく快適に過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に、理念の説明を行い、又ホーム内に掲示し全員で共有実践に努めている。不定期であるが、個人面談や全体会議時にも確認を行っている。	前年度、新たに地域密着型サービスの意義を踏まえた3項目の基本理念を作成し、事務所や廊下の分かり易い場所に掲示している。理念を毎日確認するよう取り組んでいるが、理念の共有は十分とはいえない。	全職員が理念を理解し、実践につなげられるよう、定期的に理念を確認し、話し合う機会を持つことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動(町内会清掃、夏祭り、新年会等)その他近隣の学校・保育所との定期的な交流を深めている。	町内会の運動会やお茶会、保育園のもちつきやお遊戯会に利用者と共に参加している。事業所の敬老会やクリスマス会にも保育園の園児を招き、交流している。傾聴や雑巾縫いのボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ボランティア・町内会・老人クラブの方々にホームでの行事、支援内容を報告し、理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での活動状況、利用者様の日常生活状況を報告を行っている。会議参加者様からのご要望、ご意見等は即座に検討しサービス向上に繋げている。	運営推進会議は年間5回開催され、市や地域包括支援センターの職員、町内会副会長、福祉部長、複数の家族の参加を得て、行事や防災、感染症などをテーマに意見交換しているが、自己評価・外部評価は取り上げていない。	自己評価・外部評価の内容や、その後の事業所の取り組みについて、運営推進会議でテーマに取り上げることが期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、活動状況等での取り組みを伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ている。管理者が交代して間もないため、質問事項があれば市に直接出向いて相談している。市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。ホーム内に不適切ケア防止担当者(虐待担当)が専任されていて、毎月会議で検討会が開催され職員にも勉強会等でケアに活かせる対応で取り組んでいる(資料配布)もある。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し、定期的に勉強会を行っている。玄関は日中は施錠せず自由に入りができる。入り口付近に事務所があるため出入りが把握しやすく、また、センサーでも分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。専任の不適切ケア防止担当者(虐待担当)と役職者が毎月会議を開催し職員の対応を精査し防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の社内研修会「苦小牧法務局」の担当職員の御協力で勉強会の実施等から活用できる支援にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を説明し、その都度不明な点は質問を頂きながら福祉専門用語等を使用する事無く、分かりやすい説明に心がけし納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に職員や役職者が日常の状況を、報告している。他に自由に意見を出して頂けるようホーム内に意見箱の設置もされている。あと運営推進会議時でも意見を述べて頂き、運営に反映させていくよう対応を図っている。	家族の来訪時に意見を聞くほか、運営推進会議に複数の家族が参加し、意見を得ている。家族からの意見は「連絡ノート」で共有している。毎月、写真入りの通信を作成し、家族に提供している。	家族から得られた意見や要望について、利用者ごとに記録し、整理することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議中で本音が出ないのではと考え、定期的に役職者は個別に面談や雑談の中から意見を汲み取るように心がけている。意見や提案は必ず会議で話し合いお互いの理解を得られるようにしている。	毎月ユニット毎のカンファレンスを行い、意見交換を行っている。管理者と職員は随時の面談を行い、今後は年2回の定期面談も予定している。職員は、感染症、身体拘束廃止、行事、通信などの委員会や係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料明細を受け取る時に管理者が面談や意見・要望・悩みを聞く機会を設けている。状況に応じて外部研修や労働時間「勤務体制での変更」等での条件整備も柔軟に対応を努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が必要とする研修「入社歴・経歴」等を考慮しての研修が受けることができるように配慮している。その他職員の希望でも研修が受けれる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域研修会やネットワークづくり等に参加し意見交換・情報交換での交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目		外部評価(事業所全体)	
		自己評価(1F)	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と傾聴を基本にして、入居者様の不安な気持ちを少しでも汲み取って寄り添える対応を目指している。ご本人様の安心・安全で居心地の良い居場所を構築できるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様や家族の困っている事や不安に感じていることに耳を傾け、ご家族との関係づくりに努めている。要望等も可能な限り実現できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム生活で落ち着いた生活で暮らせるように、介護保険サービス以外のインフォーマルサービスの活用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に台所での炊事活動、盛り付け:味付け:食器洗い、日常生活での馴れ親しんできたことを、見極めながら得意なことを活用しながら同じ立場で寄り添い関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	継続で職員と家族が寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。「利用者様の思いもご家族様に伝わるように調整を図っている」		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時事業所に訪ねて来られた時には、訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき、電話等で交流を持っている。	半数ほどの利用者に友人や知人が来訪している。職員が利用者を友人のいるショートステイに連れて行くこともある。自分で携帯電話を利用する方もおり、友人に手紙を書いた際は職員が投函を支援している。喫茶店やたい焼き店、海鮮食堂など、希望に応じて馴染みの場所への外出支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り調整:相談等をして良好な関係づくりに配慮している。又レク等に参加頂きお互いに楽しい時間を共有できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、来訪して頂いたり、訪ねたりし、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築けている。お手紙やお電話等での活用もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を把握し、センター方式を活用、心の声を感じとり、カンファレンス会議等で、本人本位に検討を重ねている。入浴時間も午前:午後と利用者様の意向を尊重し柔軟に対応をしている。	ほとんどの方が言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も表情や過去の経験から把握している。フェイスシートやアセスメントシートがあるが定期的な更新は行われていない。	新たな書式でアセスメントシートを作成、更新して行く意向なので、シートの整備により利用者情報の蓄積と共有が図られることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し基本情報を家族様から収集し把握に努めている。その他訪問時「知人:友人:親類」等からも世間話からの情報収集もし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的:精神的な状況や残存能力を日々の生活の中で把握に努め介護記録に落とし込んでいる。その情報をミーティングで役職者:職員間で引き継ぎを行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でケアプランについてのカンファレンスを毎月行っており、職員には利用者様情報、問題点、提案書類を会議時に提出する事を義務付けている。利用者様・ご家族様とは意見:要望等を話し合い、現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画を3ヵ月毎に更新している。モニタリング表をもとに家族や職員の意見を集約して評価を行い、次の計画を作成している。日々の介護記録は、介護目標を意識した記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援に対する提案等があれば、その都度上司に報告し検討する。職員間で情報を共有、実践し介護記録に記入、実践前は連絡ノートに記入され毎朝出勤時に確認、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様:ご家族様の時々の状況に応じて、往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援は柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・保育園・町内会の行事等で交流し関わりを持ち支援している。傾聴ボランティアの来訪もあり楽しまれている。今後も外部からのボランティアを活用し支援に努めたいと検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。「訪問診療:訪問歯科:訪問看護」等も含み。	利用者はそれぞれ、提携医療機関やかかりつけ医に定期的を受診しており、事業所でも通院の支援を行っている。3名の方は月2回の内科の往診を受けている。受診内容を介護記録に記入している。	医療に関する情報を把握しやすいよう、利用者ごとの「受診記録」作成を期待したい。

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの協力医の訪問介護師が月2回訪問され、医療職からの目線で受診の必要性や緊急対応が速やかに行えるように情報共有「医療情報記録」を職員は記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成、病院関係者と情報交換や相談に努め、退院時もカンファレンスは役職者が出席し支援計画の作成に役立てている。退院後も連絡できる関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から重度化、終末期に向けた方針をご家族様と話し合い、状況の変化時にも話し合いを行っている。病院関係者とも、支援の相談を行い、運営推進会議時にご家族様からの要望等もあり、早期の段階から検討、取り組みをしている。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明して書類を取り交わしている。現状の体制では事業所での看取りが難しい旨を説明し、家族の理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は3月29日消防より救命救急・AED使用方法の講習会を実施を行う		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他火災・津波の災害時の避難訓練を行う。又運営推進会議等で、地域へのご協力をお願いしている。今回は3月29日訓練を実施を行う。消防より消火器を借り訓練も行われる。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を地域住民の参加のもと実施しており、次回は消防署の指導も得る予定である。職員の救急救命訓練は夏までに行う予定で、水や食料等の備蓄品も用意している。	職員の救急救命訓練の受講を順次進める意向なので、その計画的な実施を期待したい。また、地震等、火災以外の災害に対する対応について、職員間で定期的に確認や話し合いを行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	原則敬語を使用、利用者様の人格を尊重し、各自の状況に応じた、声掛けや見守りに対応している	利用者への呼びかけは「さん」付けとし、職員は新人研修や毎年の法人研修で接遇を学んでいる。個人ファイルを一部イニシャル表示とし、事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認の声掛けを行い、言葉にできない方には、表情などから思いを汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本意や業務優先ではなく、利用者様の生活スタイル・希望や要望等に合った生活ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や化粧品店・衣料品店等での購入希望や出かける時にはご家族様の一部協力を得て支援に活用している。在宅で行っていたことを継続できるように取り組んでいる。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事作成「調理：盛り付け」等や食事の片付け「食器洗い：拭き」もされている。	法人の献立と食材を利用しているが、行事食等では食材を中止し、バイキングやチラシ寿司を楽しんでいる。利用者は下ごしらえを手伝い、職員も同じ食事を一緒にとっている。畑でとれた新鮮な野菜も食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の本部に「担当栄養士が配置されている」栄養バランスを考慮したメニューを提供している。10時：15時に水分摂取の時間も設けていて、食事：水分量共に記録シートに記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後の口腔ケア(歯磨き・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等個々の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者様の羞恥心等も考慮し適時にトイレ誘導しトイレで排泄ができるように取り組んでいる。トイレの場所を把握できない利用者様のためにトイレに「表示：文字と絵」で工夫している。	約8割の方にトイレ誘導が必要だが、「排便表」や「介護記録」に全員の排泄パターンを記録し、声かけに配慮しながらトイレでの排泄を支援し、殆どの方がトイレで排泄できている。夜間は、状況によりおむつやポータブルトイレも活用しながら排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から野菜：食物繊維：牛乳：ヨーグルトなどの食品を多く取り入れている。その都度「飲水量・便秘日数」を記録し職員間で情報共有している。毎日の日課で体操：散歩もに支援に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各入居者様が最低週2回は、確実に入浴楽しめる様対応、又入浴時の意思確認を行っている。時間帯も午前と午後と意思確認し柔軟に対応している。希望があれば毎日でも入浴できる体制を整えている。	毎日、午前・午後の時間帯で、平均週2～3回入浴している。希望すればそれ以上でも入浴できる。利用者が気乗りしなければ、日にちや時間、担当者を変えて対応している。入浴剤や湯加減を個々に合わせ会話しながら楽しく入浴している。同性介助や二人介助も対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。特に日中でのレク活動を活用し運動量を多く取り入れ夜間良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を職員全員に配布し、把握するよう努め、服薬時は、飲み込み確認の支援を行っている。利用者様毎の薬ケースがあり職員は随時確認もできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から生活歴で本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している。春からはホームの畑作業：ドライブ：外食：買い物等など気分転換できる支援を多く取り入れている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。又外出行事も春から毎月計画し随時支援している。「年間10回程実施されていて」市外：千歳空港・支笏湖・白老・ポロト湖もほぼ毎年出かけている。個別の希望もその日の状況に合わせて支援できるように取り組んでいる。	天候の良い時期には毎日でも散歩が可能で、車椅子の方も一緒に出かけている。冬季でも散歩や通院などで頻繁に外出している。外出行事では、車椅子対応の社用車で、お花見や紅葉狩り、白老公園、千歳、金太郎池等に行っている。通院時に利用者の希望で外食することもある。個別外出にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かり金を行っていない。一部の利用者様がお小遣い程度の現金を所持され自由に希望で買い物等で使用されている。職員が随時同行し確認「領収証も回収」しご家族様に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時希望により、電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。職員が一部協力し繋がりを重視した支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた館内のディスプレイも定期的に変え、心地よく過ごせる様工夫している。室内の湿度にも職員は配慮している。定期的な換気活動やリビングにも加湿器を設置し快適に過ごせる工夫をしている。	共用空間は広くて清潔で、中庭と小上がりの和室を囲む回廊式の廊下があり、明るく開放的な造りである。浴室やトイレが広く、手すりも使いやすい。居間や廊下には、利用者の作品や季節の装飾が品よく飾られている。居間には音楽が静かに流れ、利用者はソファや椅子でゆったりと寛いでいる。カラオケや遊具も備えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室・リビング・和室など適切に居場所の工夫をしている。ソファの増設やテーブルの配置もしてスペースを確保しくつろぎの場を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの手作り表札を居室の入り口へ掲げ各部屋に湿度計を設置心地よく過ごせる様工夫している。在宅時に使用していた愛着のある家具・仏壇等も居室に設置を推奨している。	居室入口には、職員手作りの洒落た表札が掲げられ、室内は利用者の持ち込んだお手製の作品や人形、写真等が綺麗に飾られている。センスの良い椅子が持ち込まれ、職員や家族の協力で、個性的な部屋づくりを楽しんでいる方も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に配慮し手摺り・エレベーターを設置し対応している。居室のネームプレート・トイレ等の案内表示して工夫している。「車椅子・歩行器」も用意している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師 2F		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成28年3月17日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600343-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・町内会での行事活動、近隣の小学校や保育所との定期的な交流活動があり、入居者様は地域住民の皆様と共生して生活ができるよう積極的に取り組んでいます。
 ・入居者様のご自宅で行っていたことをホーム生活でも行なえるよう心がけ、一緒に家庭的な雰囲気の中で家事仕事、料理の盛り付け、配膳、拭き掃除や床のモップかけ洗濯など安全に配慮し行っています。
 ・利用者様が生活の中で不安な気持ちにならないように少しでも軽減するように受容と傾聴の姿勢で寄り添う介護でその人らしく生活して頂くため、職員は地域住民の皆様のご協力を頂き入居者様やご家族様との関わりを尊重し地域活動参加を推奨しております。
 ・継続で職員の意識改革の推奨で、法人では随時参加できる社内・社外での教育研修に力を入れております。スキルアップすることで、各職員の知識向上、モチベーションをあげてやりがいのある職場環境と利用者様並びにご家族様からの安心と安全の享受その中から信頼も受けられと考えており随時参加させております。
 ・継続で感染・不適切ケア「虐待予防」に対する職員の配置を行い、専任で内部・外部研修会に参加しホーム職員に報告し勉強会の実施も行い、その状況は定期的な運営推進会議等でご家族様や地域住民の皆さまにご報告などにも取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者より、理念の説明を受けている、その後もユニット会議・個別面談等で話し合いがある。又ホーム内に掲示し全員で共有実践にも努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動・古紙回収・ごみ拾い他行事に参加、積極的に交流に努めている。その他ではお祭り:学校:保育園等での定期的な相好交流もされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、ボランティア・町内会・老人クラブの方々参加して頂き、ホームでの行事、支援内容を報告し、認知症に対する理解を深める対応に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動状況を各ユニット担当者より詳細に報告している。会議時には各関係者様の意見:要望もその都度取り入れられサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂きサービスの取り組みを伝えている。その後ホームからの定期的な議事録や利用者様の活動状況「新聞作成」し介護福祉課様に届けている。その都度疑問等が発生した時にも随時訪問や電話での問い合わせもしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠をしていない。また、身体拘束をしている事実もない。利用者が穏やかで自由に暮らせるように注意を払い支援に努めている。「ホーム内に不適切ケア(虐待)防止担当者が配置されている」勉強会も予定されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア(虐待)担当者を中心に勉強会で具体例等を出し学ぶ機会を多く持ち支援に活かしている。その他毎月のユニット会議時にも話し合いの機会を設けて防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の社内研修会で「苫小牧法務局」の担当者より具体的な資料等での提示があり学ぶ機会があり支援に活用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、管理者がご本人様・ご家族様に理解しやすい言葉「福祉専門用語」を使用しないで、丁寧に説明をして納得を図っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時には随時日頃の生活状況を報告している。要望等があった時には管理者に報告。要望をユニット会議で検討し改善に努める。その他ホーム内にご意見箱を設置。運営推進会議の場でも自由に意見を表せる機会を設けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議等で、事業所の運営報告を行い、職員からも提案事項を聞く機会を設けている。職員との個別面談も実施し、意見内容を精査し、支援に反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談で要望や希望・悩み等を聞く機会を設けている。職員の希望があれば随時社内・社外研修に参加して頂き、各職員の意識向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社歴・経験等を考慮し研修を受ける機会を設けている。随時職員には研修案内も提示し参加しやすい体制にもしている。職員の自発的な勉強会「外部」等にも必ず勤務調整をし参加できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧地区GH協会等の事業所との交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。その他病院・福祉施設等とも交流をしサービスの質を向上させる取り組みをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本は受容と傾聴の姿勢でご本人様・ご家族様と向き合い不安や要望に耳を傾けて少しでも安心が得られるための関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で直面している悩みや困りごとを少しでも軽減できるために時間をかけ耳を傾けながら検討し解決に向けた関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時緊急性が有無されがちだが、基本は職員が寄り添うチームケアで支援に努めている。又、外部のサポートやサービスが必要な時はご家族の協力を頂きながら利用等で対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとってどうすることが、安心できるのか？職員が汲み取る姿勢を持ち共に暮らす関係を築いている。在宅時に馴れ親しんでいたこと得意なことを活かせる活動と同じ目線で寄り添い関係を築く対応に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に利用者様・ご家族様に寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。「利用者様とご家族様間での思いも伝わるように関係調整も行っている」		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に訪ねて来られた時には、訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき等で交流を持っている。「知人:友人:親類」等では面会表の記入もしていただいている。後日、ご家族様にも報告している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に、利用者様同士の関係を把握し、職員が間に入り良好な関係づくりに配慮している。又レク等に参加頂きお互いに楽しい時間を共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続で退去後も、来訪して頂いたり、訪ねたりし、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築けているし相談にも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用から生活歴から本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している。状況に応じ「知人:友人:親類」等からの情報収集も活用し検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	原則はセンター方式を活用し基本情報をご家族様から収集し把握に努めている。不足な情報はその他関係者様の来訪時に協力をして頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方・心身の状態、有する力等感じ取り、日々の引き継ぎ業務やカンファレンス等で、話し合い、どのように支援するか現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を基に、日々話し合いを持ち、今何が必要かその日その日に対応、又ご家族様と共に、病院等に相談に行き、支援に努めている。ご本人様:ご家族様:ユニット職員で意見をすり合わせ現状に即したプラン作成に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に閲覧、介護記録や連絡ノートにより、情報を共有実践に心がける。介護計画の見直しや支援での統一的対応の仕方に注意し実践に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて、柔軟に往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援に努めている。「ご本人様:ご家族様の了解の下」			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	継続で学校・保育園。町内会活動・ボランティア等の協力を頂き、関わりを持ち支援している。現在、苫小牧社会福祉協議会にボランティアさんの紹介と打診を協議検討中である。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームとしては、医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	継続で医療連携先の訪問介護師が月2回訪問され、日常の情報や気づきを伝達して頂き、病院と連携が図れる様に支援している。その後の状況報告もご家族にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成、病院関係者と情報交換や相談に努めている。退院前には役職者もカンファレンスに家族様と同席対応をしている。退院後も常に相談できる関係を築いている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、ご家族様と話し合いを行い、今後の方向性を説明と提案をしている。又病院関係者や他の福祉施設等の関係者とも関係性を築いている。常にご家族様からの相談を支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	3月29日、救命の研修予定「消防より救命救急・AED使用方法での研修」実施を行う。入社間もない職員を優先し実践力を身につける対応に取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月29日にホームで年2回の総合訓練の他火災・津波の災害時の避難訓練を行う。又運営推進会議等で、地域へのご協力をお願いしている。「消防より消火器を借り練習も行う」			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は原則敬語を使用し対応する。利用者様個人を尊重し、各自の状況に応じた、声掛けや見守りに対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定が表しやすいように選択肢を提供している。表出ができない利用者様には表情から、思いや希望が汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先にするのではなく、利用者様一人ひとりの生活リズムを大切に考えそれぞれの希望に合った生活で過ごせるように支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	継続し毎日、清潔におしゃれに気を遣い、又整容にも、配慮支援している。こだわりの化粧品や洋服でのおしゃれが日々できるように支援に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に下膳・調理・後片付け等出来る範囲で、共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の本部に栄養士が配置されている。ホームでは個別に、刻み・トロミ・お粥対応などし、食事量・水分量確認され「状況も記録されている」		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、起床時・食後の口腔ケア(歯磨き・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等個々の状況に応じた支援をしている。利用者様の状況に応じた準備や一部介助対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄リズムを把握して定時にトイレ誘導を促しトイレで排泄できるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況を確認、便秘になると不穏になる事を理解し、食事内容「野菜:食物繊維:牛乳:ヨーグルト」等を提供し工夫し、日中での活動量を取り組んで便秘予防に努める。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員は利用者様の要望があれば、AM:PMで希望により入浴ができる体制を整えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。「特に日中での趣味活動」を促し夜間良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を職員全員に配布と説明している。そのことで全職員が把握するよう努め、服薬時は、飲み込み確認の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から過去の生活歴から本人の好きなことや特技を把握し、本人が楽しんで頂けるように支援している		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。又外出行事も年間計画し随時支援している。一部ご家族様のご協力も頂き外出や外泊もされ支援に大変役立っている様子がある。今後も推奨して行きたい。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは預かり金を行っていない。現状はお子遣程度の現金は利用者様が管理されていて、職員同行での買い物等で使用されている。職員がその都度領収証を確認とご家族様に報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、何時でも電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に生活感や季節感を取り入れた館内のディスプレイも定期的に変え、心地よく過ごせる様工夫している。その他ホーム内の温度・湿度も常時配慮していて、季節により加湿器を常時稼働させて対応をしいて居心地よく過ごせるように工夫がされている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでリビングのソファでくつろげるスペースを用意していたり、廊下側にもソファを増設し居場所の提供に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みな家具や用品を配置し居心地よく過ごせるように職員はご家族様と相談し対応に努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴槽:廊下に手摺りの設置されている。エレベーターも設置され対応している。居室のネームプレート・トイレ等の案内表示して工夫している。「分かりやすい文字と図柄」で表示し対応をしている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム山法師

作成日：平成 28年 4月 11日

市町村受理日：平成 28年 4月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践「職員間での認識や共有不足」	○職員の理念に対する共有な目的意識の周知徹底を図る。	○職員の名札の裏に理念を記載、毎朝のミーティング・毎月のケアカンファレンス時に確認と唱和	6カ月
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み「会議時での勉強会や取り組みに対する具体例が欠如している」	○具体的な取り組みに「ご家族様や地域住民の皆様」の参加協力をいただく。ホームでの勉強会を開催する。	○運営推進会議に外部講師等や内部資料を活用しご家族様や地域住民の皆様との研修会の実施	6カ月
3	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映「来訪時での意見交換だけが重要視され状況での記録等が不足している」	○ご家族様との意見を反映事項：各利用者様用のファイルノートを作成し随時意見や要望等ができる様にする。	○常に意見等の反映ができる様に各利用者様毎の情報共有ノートの作成を図る。	6カ月
4	23	○思いや意向の把握「現状は更新の不足」職員の入れ替わりがあった為情報収集が出来ていない。	○センター方式を活用「ご本人・ご家族様」を入れての生活歴：既往歴を再検証「現状は更新不足」情報が古い。今後は年に1回確実に更新する。	○センター方式の活用や法人独自での書類を活用しご本人様・ご家族様の来訪時等で今後も情報収集の理解を求めホーム生活情報と共に情報共有を図り、年に1回確実に情報の更新を図る。	6カ月
5	30	○かかりつけ医の受診支援「職員の医療情報記載不足」や認識不足。記載漏れ等があった。	○現状、生活チェック表の裏に記載する箇所を設けているが職員の意識が薄いので周知徹底を図る。受診対応や処方薬情報を詳細に記載をする。	○受診担当者や当日の日勤責任者が確実に状況の記録を行う。「ご家族様から受診情報を確認する」	6カ月
6	35	○災害対策「実施回数が少ない」救命講習での研修が不足している。	○定期的な災害訓練：防災訓練：救命研修をご家族様や地域住民の皆様との協力をいただき開催する。	○ホームでの定期的な災害：防災：救命研修の実施、ホームで不足している外部研修に参加して行く。資格等の取得も目指す。並行しホーム内での担当責任者の設置を行う。	6カ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。